



「ダイバーシティのまちづくり宣言」検討委員会を代表し、都竹市長に「飛騨市ダイバーシティ宣言」を手渡した皆さん

## 互いの違いを認め合い、誰もが住みやすいまちを！ ダイバーシティのまちづくり宣言

飛騨市は、市民一人ひとりの人権が尊重され、多様性を認め合いながら、誰もが自分らしく生きることができる「人権尊重のまち」を目指し、令和元年から当時全国的に注目されていた性的マイノリティに関する人権課題を取り上げ、市民の理解を深める取り組みを始めました。

市民向けの啓発や職員の意識改革などを実施していく中で、「誰もが自分らしく生きることができるまちづくり」とは、性的マイノリティだけではなく、性別や年齢、障がいの有無、国籍など、すべての皆さんがそれぞれ持っている違いを互いに認め合うことだという認識が深まりました。

そこで「違いを持った人々が共存しながら、それぞれの幸せを追求できるまち」を目指し、令和5年度に「ダイバーシティのまちづくり」の取り組みをスタートしました。ダイバーシティ (Diversity) とは「多様性」を意味する言葉で、さまざまな違いを持った人々が互いを認め合い、誰もが自分らしく共存できている状態のことを指します。

まずは、市民の皆さんに「飛騨市が目指すダイバーシティとは何か」を理解していただくため、「飛騨市ダイバーシティ宣言」の作成を検討。「ダイバーシティのまちづくり宣言」検討委員会を発足し、講演会や研修会などを開いて学びを深め合いながら宣言文の作成を進め、完成しました。



カタチは、人それぞれ シアワセは、みな同じ

「飛騨市ダイバーシティのまちづくり宣言」の取り組みを進める際に使用するロゴマークです。広く市民の皆さんに親しんでいただけるよう、今後配付するステッカーや啓発グッズなどに使用していく予定です。

## 飛騨市ダイバーシティ宣言 「ともに幸せを描こう」



私たちは、様々なちがいをを持った人々が共存しながら、お互いを認め合い、誰もが自分らしく生きることができるまち、それぞれの幸せを追求できるまちの実現を目指し、次のことに取り組みます。

1. 様々なちがいをを持った人々がともに生活していることを認識し、各々が輝く生き方ができるよう、ともに受け入れ、ともに暮らせるまちをつくります。
2. 常に自分ごととして捉え、相手の立場になり、優しい気持ちにあふれた住みやすいまちをつくります。
3. 互いに支え合い、気持ちに寄り添い、誰もが安心し、心豊かに暮らせるまちをつくります。

### これまでの主な取り組み



令和5年7月21日、一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事、田村太郎氏を招き、「誰も排除されないダイバーシティのまちをめざして」と題した講演会を開催。会場には53名が来場し、ダイバーシティ推進の意義などについて学びました。  
また、「ダイバーシティのまちづくり宣言」検討委員26名が決まりました。



令和5年8月23日、第1回ダイバーシティ勉強会を開催しました。女性活躍推進に取り組み、外国人を雇用している事業所である、株式会社飛騨ダイカスト代表取締役の渡邊正憲氏に会社での取り組み事例を発表していただき、その後グループごとに意見交換を行いました。



令和5年9月22日、第2回ダイバーシティ勉強会を開催しました。吉城福社会の谷口博亮さんからは、障がい者自立支援施設「憩いの家」での作業内容や利用者の状況など、さまざまな取り組み事例をうかがいました。また、高山病弱児を守る会「あかりんぐ」の勝田なお子さんからは、活動に込めた思いや具体的な活動内容などをうかがいました。



令和5年10月19日、第3回ダイバーシティ勉強会を開催しました。市職員と合同で、岐阜県人権啓発センター人権啓発指導員による「性的指向・性自認」に関する研修会を受講しました。性の多様性に関する基礎知識を学び、「人権とは、知ることから始まる。知っていることで関わり方が違ってくる」などの気付きがありました。

### ワークショップを通じて委員からはさまざまな意見や感想が寄せられました

- ・相手のことを理解（知る）することで共感につながる
- ・それぞれの特性（属性）をポジティブにとらえる
- ・地域、社会との交流の場が大事
- ・まずは寄り添い、共に考えることが第一。支えになりたい
- ・ダイバーシティを推進していくには、誰かが著しく我慢する・配慮するといったことでは、共生・理解し合うということはない。各々が認め合い、誰もがwinwinな関係であることが大切

## 委員のお2人に話をうかがいました

高山人権擁護委員協議会  
飛騨部会長

もりもと はるお  
**森本晴男さん**



### ■委員会に参加して感じたことは？

外国の方を雇用する社長さんのお話で、飛騨市でも外国の方が多く勤めているそうです。意見交換で、ごみ出しなど日々の暮らしの中で地域の方とのトラブルの話聞いて、「交流が少ないことで問題が生じてしまうのでは」と感じました。互いに話をしてみると、付き合いはそれほど難しくないので、その一歩を踏み出して交流する機会が、まだまだ少ないのかなと思いました。

### ■宣言を作成するうえで大切にされたことは？

まず、皆さんに読んで理解していただけないといけませんから「難しい言葉はあまり使わないように」「飛騨の言葉やさしい言葉で語りかけるような文言に」というのが委員の皆さんの意見でした。他人ごとでなく自分のこととして考えてもらいたい、という意味も込めました。

### ■どのようなまちになってほしいですか？

みんなが「住みやすいまち」になってほしいです。結婚とか就職で市外から来られる方もいます。若い人だと、近所づきあいが濃いと余計つらくなったり、薄いとトラブルが起きたりします。でも、相手の立場に立って、相手の気持ちを考えてながら付き合っていくと、実はすべて解決するんじゃないかな、とも思います。まずは、自分ごととして考えてほしいですね。短期間では浸透しないので、地道に啓発を続けていくことが大事だと思います。

高山病弱児を守る会  
「あかりんぐ」代表

かつた なおこ  
**勝田なお子さん**



### ■委員会に参加して感じたことは？

歩行困難や知的障がいの重い子、重症心身障がい児者をもつ18家族でつくる「あかりんぐ」で、「安心安全で快適に暮らせる、理解ある地域になったらいいな」「いろんな人がつながって生きやすくなったらいいな」という思いで活動していますが、ダイバーシティの考え方とよく似ているなと思いました。また、研修に参加して「障がいが見た目では分からない人たちのつらさをどうしたらいいんやろ」「外へ出たくない人たちのことをどうやって知ってもらったらいいんやろ」ということを感じました。

### ■宣言には、どんな印象を持たれましたか？

できあがった宣言を見て、すごく読みやすかったですし、日ごろ都竹市長がおっしゃって見える言葉とよく似てるなと思い、飛騨市らしさを感じました。「常に自分ごととして捉え…」というところとか。親しみやすい宣言だと思いました。

### ■どのようなまちになってほしいですか？

互いを知るということがすごく大事だと思うので、障がいのある人や生きづらさを抱える人も、やっぱり一歩外へ出て、話せる人を見つけて、楽しく過ごしてほしいです。そこから「次にどうしたらいい？」と考えて、少しずつ視野を広げていけるような意識を、市民一人ひとりが持って生きていけたらなあと思います。

## 今後もダイバーシティのまちづくりを推進します

今後、ダイバーシティのまち推進市民会議(仮称)を毎年開催しながら、啓発の成果や現状、今後の取組について意見交換し、「ダイバーシティのまち」の定着を図っていきます。ぜひご参加ください。

- 5月 ダイバーシティのまち推進市民会議(仮称)を開催  
「ダイバーシティのまち宣言キックオフイベント」として講演会を開催  
・市内企業、団体に対し宣言へ賛同していただけるよう呼びかけ  
・啓発ポスターやステッカーを配布
- 6月 宣言に賛同いただく団体・企業の名称とコメントを市ホームページに掲載
- 7月 ダイバーシティロゴ入り啓発グッズを作成
- 8月 ダイバーシティ関連映画の上映  
市内外国人による楽器等の演奏を交えた市民との交流
- 12月 人権週間に合わせ、12月を「ダイバーシティ推進強化月間」と位置づけ、推進市民会議(仮称)を開催。同報無線での呼びかけや、ケーブルテレビ、市ホームページなどで啓発

### 飛騨市ダイバーシティ宣言 賛同団体・企業を募集します

「飛騨市ダイバーシティ宣言」に賛同いただける団体・企業を募集します。賛同いただいた団体名、企業名とお寄せいただいたメッセージを市ホームページでご紹介します。  
詳しくは右コードをご覧ください。



問 市民保健課 ☎0577-73-7464